
銀色の満月

雪奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀色の満月

【著者名】

雪奈

NZP-1

N6480P

【あらすじ】

ここは魔法の世界。
しかし科学も発達している世界。

こんな世界で、一体どんなことが起きるのか…。

それは…誰も知らない…。

昔話

今からする話は、昔話。

この世界に魔法が広まつた後の話。
だから、科学がまだなかつたころの話。

世界に魔法が広まつた頃、戦火が上がつた。
それを観ていた神々は、三人の使者を放つた。

一人は黒き魔力を持つた者。

彼の者は、戦いを止める為に一人戦つた。

一人は白き魔力を持つた者。

彼の者は、戦いに傷ついた者を癒した。

一人は灰色の魔力を持つた者。

彼の者は、その強大な力を使わず一人考え苦惱しそして研究した。

しかし、戦いは終わりを迎えることはなく激化した。
神々は呆れ怒り、世界中の魔力を消した。

そして戦いは終わりを迎えた。

しかし世界は衰退していく。

木々は痩せ細れ、大地は涸れていった。
そして、飢えを満たす為に争いが始まった。

神々は頭を抱えた。

「どうすれば良いんだ…」

「教えてあげればいいんですよ」

とある一人は呟いた。

「なにをだ？ なにを伝えればよい？ 教えてくれ！」

「生きることの楽しさ、ですよ」

彼の者は……灰色の魔力を持った者だった。

「どうやつてだ？」

「それはあなたがやつてみないと……私たちは、協力しますよ？」

神々は、一度色々なものを見てることにしてみた。

魔力を再び与え、雨を降らした。

大地は潤い、木々は生き生きと生い茂った。
そしてその雨で、海ができた。

黒き魔力を持った者は世界を監視するために、世界中を歩き旅をした。

白き魔力を持った者は今までどつり、人々に癒しを与えた。

灰色の魔力を持った者は人々に生きる楽しさと生きることの大切さを訴え、そして自分の知識を人々に教え歩いた。

そして世界は平穏へと導かれ始めた。

春風

朝。

窓から光が差す。

「… そろそろ時間かしづ」

私は立ち上がる。

私の名前は、黒鐘、優祈。

瀬良魔法学園に今年から通う女子高生だ… 表向きは。まあ説明は後にして、今から学校へ向かう。

「おはよう。」

「…おはようつ」

あこがれつじてきたのは隣の部屋の赤石、緋芽。

髪の色は黒で右側に結んでいる。童顔で背も低い……。
しかし、私よりは高い……2センチほど。

彼女の身長は152センチ。
私は……言わなくていいよね?

「今日も元気だね~」

「まあね」

まああなたよりはテンション低いけどね。
この子は見て聞いて分かるようにかなりの元気っ子。
大抵ハイテンション。
ちなみに私の基本はローテンション。
なのでこれが基本なのだ。

「今日は入学式だけだったよな?」

「違うよ。後、各クラスで自己紹介等もあるよ」

「そつかあ」

まあ早く終わるだろ?うけど

「早く終わるよね?」

「……多分だけどね、多分」

所詮多分なのだ。

私は予想する事に長けてる。

だから、想定外の事はあまりない。

「そつか、なら大丈夫だね！」

「？」

なにが？

「今日、買い物いこいつよー一緒に！決定！」

「…………えつ？」

ちょっと焦った。

…まあ想定内だけど。

「ダメ？」

アホかこの子。

女の子にそんな顔見せるなし。

などといひを見つめてくる、上田遣いで…。

「…別に、良じよ」

「ほんと…やつた…」

傍から見たら無邪氣すぎる。

…本当に無邪氣だから困る。

「よしーなんか今日のやる気が出てきたー早く学園こーる？」

と言いながら走り出す。

「ちょっと、待つて」

つて言いながら私も走り出す。

…走っている時に見た桜の花は、綺麗だった。

春風？

さて、学園に来たのはいいが…。

「大きいなあ・・・」

「やうかな？他の学校とあまり変わらないよ？」

「やうじやなくて、私たちと比べて、だよ」

そう。別に校舎ではないのだ。

単純に私たち人間に比べて、の話である。

「そんなの、当たり前じやん！」

「…まあね」

「あたし、今までだけ優祈の考えてることが時々分かんなくなる
よ…」

シコンとなる。

まあ、知られようとは思わないんだけどね…。
でも、別にそこまで深い話は今回してないはずだけど…。

「今は深い意味じゃなくて、単純に見たとおりの話なんだけど…」

「やうだったの？こつものよつこ、哲学的な何かかと思つてた。な

「なんだ考えすぎて損した」

まあ確かに時々人間とは？みたいなことを少し話したりするが…。

「まあ、そういうことで受付いくわよ

「あつ、待つて！」

……何故だ。

「一緒にクラスだね！嬉しい！」

なんで一緒になんだ……。

別に一緒にいいやなわけではない。

この学園は、成績でクラスが分かれるのだ。

私たちのクラスは1・A。

この子が私には劣るもの、頭が良いなんて……。

一応この学園は偏差値は高くないにしろ、普通より高いのだ。
まさか、魔力値？

それなら説明できるが……。

「緋芽、魔力値どれくらいだったの？」

「ん？ 唐突だね？ 12000Mだよー。うつへ。高いでしょ！」

「うそ… なんでそんなに高いのよ」

おかしい。

一般の人では1000M^{マナ}ぐらいしかないので。

普通の魔導士でも8000M、高等魔導士は15000Mだが、

「鍛錬のさせすぎかしら…」

でもなんで…この数値ならUクラス行けるはずなのに。

「なんでその数値でAクラスなの？」

単純な問題だった。

「多分テストの点数が悪かったからだよ。優祈も分かってるでしょ
？」

……。

そうだった。

この子、運動とかはできるけど勉強とかは無理な子だった。

と話してると教室に着いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6480p/>

銀色の満月

2011年1月4日03時00分発行